

『何の日でもない』 作：ポチ子

『何の日でもない』 作：ポチ子

コタツに入って、

みかんを食べながら外を眺めた。

庭の木には雪が積もっていて、

天気は晴れだった。

何の日でもない日の記憶。

小学生の冬休みだと思う。

なんで覚えてるかも分からない。

でも今でも鮮明に思い出せる。

みかん美味しいな。

外寒そうだな。

コタツ暖かいな。

その時はそれしか考えていなくて。

それだけしか考えてなくても、

生きてくことができた。

だから幸せだったんだ。

だから、覚えてるのかな。

幸せだった、

何の日でもない日の記憶。